

2019 年 12 月 13 日

2019 年 11 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は 11 月としては過去にないほど低調な動きで推移し、また学参関連や報告書関連も鈍く前年を下回った。

（前年比 87.5%）

巻取は前月に引き続き目立った動きもなく特に金融関連が悪く前年を大幅に下回った。

（前年比 68.7%）

再生紙平判は全体的に低調であったが、大口物件受注先の数字が寄与し前年を大きく上回った。

再生紙巻取は再生紙離れの動きが見られ前月に引き続き大きく下回った。

（前年比 再生上質平判 120.9% 再生上質巻取 82.3% 再生上質計 105.0%）

（前年比 印刷用紙 A 83.3%）

<A2 コート>

平判は金融、生損保、目論見書、官公庁関連等で動きがあったものの全体の印刷案件数、用紙使用数量ともに少なくグロス紙、マット紙とも前年を大幅に下回った。

巻取は生損保、自動車、不動産等で動きがあったもののカタログ、チラシ等の大口案件が少なく輪転会社の在庫紙も増えグロス紙、マット紙とも前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 84.1% 巻取 66.5% 全体 80.4%）

<A3 コート>

学習塾、家電量販店、食品スーパーのチラシ等で平判に動きがあったものの、巻取は用紙供給不足からの紙離れの影響もあり前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 101.9% 巻取 67.8% 全体 79.2%）

<ノーカーボン紙>

一部生損保関連の動きは見られたが新規案件、その他の動きも見られず一般の動きも弱く、平巻共に前年を大きく下回った。

（前年比 平判 83.1% 巻取 83.6%）

<上質フォーム>

金融、官庁関連の動きも弱く、生損保関連が一部動いたがメーカー工場トラブルでの供給不足の影響もあり前年を下回った。

（前年比 90.5%）

#### <包装用紙>

季節商品向けの手提袋、高級包装紙用途の片艶、両更晒は他品種へ移行した。全般的に省包装化と素材変更等により各種包装紙でも目立った動きはなかった。特殊両更（前年比 83.7%）、軽包装（前年比 85.5%）、片艶晒（前年比 87.2%）、両更晒（前年比 80.0%）、純白ロール（73.7%）と各種軒並み昨年を下回った。その他包装紙（118.2%）で動きがあったものの全体を押し上げるには至らず、包装紙合計で前年比 85.2%と昨年を下回った。

#### <板紙>

年末需要のクリスマスやバレンタイン関係は堅調な動きであった。食品関係や日用雑貨なども動きがあり、特板等のディスプレイ、POP なども堅調で全体的には前年を上回った。

（前年比 105.2%）